

KA GU MI
加久見城館遺跡群

試掘確認調査概要報告書



写真上：対象地を南西より撮影



2007年3月
土佐清水市教育委員会

○ 調査に至る経緯

中世の土佐・幡多荘に下向し、戦国期の地域権力として権勢を誇った土佐一条氏は著名であるが、その外戚となった土豪が加久見氏である。その故地は本市加久見地区とみられてきたが、同氏の発展過程や居館の位置等について、具体的なことはほとんど分かっていなかった。

土佐一条氏について2002年度より科学研究費による調査研究を行ってきた高知大学教育学部日本史研究室では、加久見氏の歴史的重要性に着目し、加久見地区に所在する山城跡や香仏寺五輪塔群（図8）の調査を実施した。その結果、加久見城跡では15世紀後半代頃の城普請が確認され、香仏寺の五輪塔群は、14～16世紀代を中心とする四国でも有数のものであることが判明した（図1等）。また長宗我部地検帳からは、当地に一定規模の屋敷があったことが読み取れた。これらの成果を受けて土佐清水市教育委員会では、加久見氏関連の屋敷跡確認につながる資料を得るための試掘確認調査を実施することとした。

○ 調査の方法

対象地を縦断する試掘トレンチ3本と、川側の小トレンチ1ヶ所を設定した。TR1～3は幅1.6～2.0m、長さ6.8～8.4mを測る。調査の性格上、遺構や包含層の完全掘削を目的とせず、調査終了後は土嚢やシートを配して保護を図ったのち、埋め戻した。なお、高知大学による本年度の調査が、当調査の結果を受ける形で引き続いて実施された。測量は、土層断面及び遺構平面については1：20を基本とする実測図を作成し、トレンチ位置は平板を使用した。

○ 例言

1. 本書は、加久見氏関連遺跡試掘確認調査の概要報告書である。
2. 調査主体 土佐清水市教育委員会生涯学習課
協力 高知県教育委員会文化財課、その他詳細は巻末抄録参照。

○調査の成果

1) 出土遺物

全てのトレンチで中世・近世の遺物が出土しており、近世は少ない。遺物密度はTR3が最も高く、TR2は低い。種類や時期については、トレンチ間での相違は指摘できない。

内容は土師質土器の他、13世紀後半頃の瓦器椀、15世紀代の備前焼大甕・すり鉢、瀬戸焼、常滑焼大甕、奈良火鉢、貿易陶磁器、近世陶磁器等が包含層を中心に出土している。近畿で作られた瓦器椀には和泉型の他に、楠葉型とみられるものがあることが注目される。貿易陶磁器には、13世紀代に比定される青磁碗や15世紀代の龍泉窯系青磁、華南産白磁皿、象嵌青磁がある。国産の瀬戸焼（平椀など）、常滑焼、備前焼は15世紀代中心で、他に銅銭（元豊通宝1078年初鑄）も出土した。

2) 検出遺構

遺構・遺物ともに最も密度の高いTR3を中心に述べる。同TRでは2面の中世面が確認され、地表下約90cmの下位面で柱穴跡群や溝跡を検出した。柱穴は径30~40cm、深さ30~60数cmで（図4）、出土遺物からみて鎌倉時代後半頃に属するとみられ、中には土器や陶磁器が埋納されたもの（図6）や石が入れられたものがあった。

なお、隣接する高知大学調査区では、上位面で建物等に関連するとみられる石列が検出され、遺物から15世紀代に属するとみられる。TR3やTR1の土層を観察すると、鍛冶などを行った後に何度か整地をした形跡があり、高知大学調査区では炉跡が検出されている。

その他のトレンチで検出した柱穴跡も、TR3のそれと同時期とみられ、TR1では土師質土器の集中が検出された。

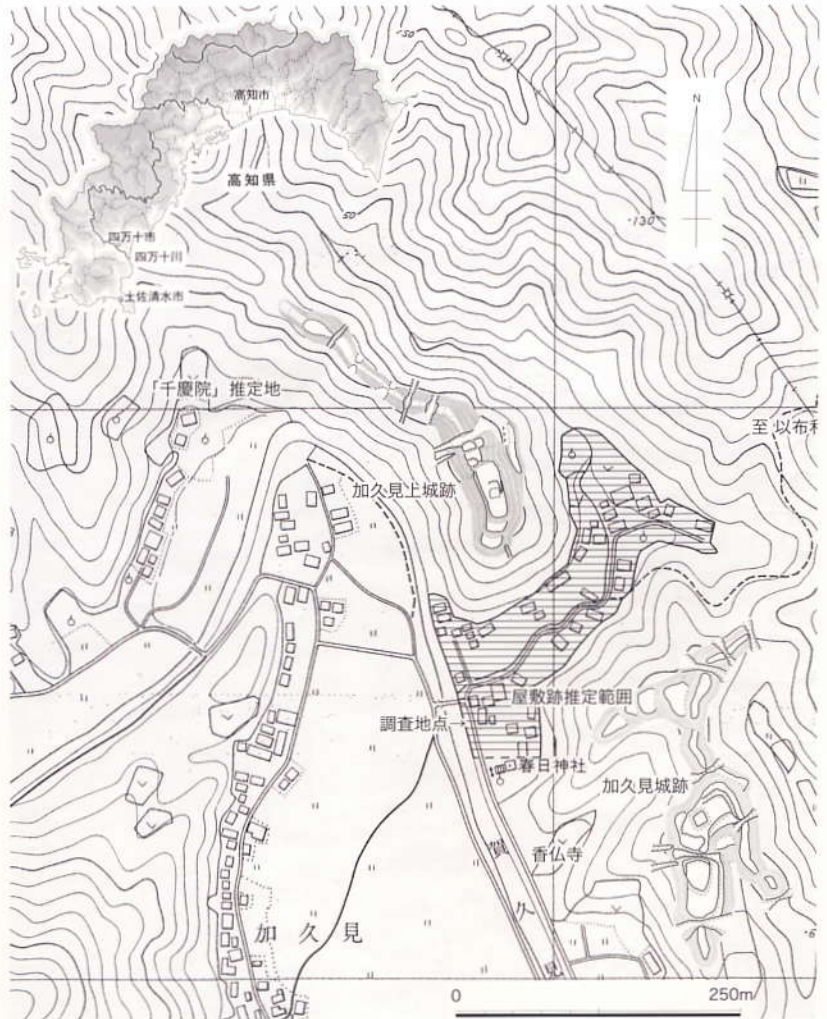


図1 遺跡位置図



図2 調査状況（西より）

○まとめ

注目される成果としては、加久見氏の活躍が知られていた15世紀代の遺物群に加え、13世紀代まで遡る遺構・遺物が多数検出されたことである。これにより、鎌倉時代後期から当地に拠点的な施設が存在したことが明らかとなった。建物の柱穴は比較的大きく、しっかりとしたものである。次に、大陸・朝鮮

半島製品を含む多様な搬入品の存在が注目される。中でも鎌倉期の楠葉型瓦器碗や、高麗こうらいとみられる象嵌青磁は、本県に限らず地方においては極めて限られた遺跡でのみ出土することが知られている。このような遺物の存在は、それを入手できる権力や財力だけでなく、当時の中央権力との特別な関係を示唆すると考えられる。

これらの成果から導かれるのは、鎌倉後期頃から当時の幡多荘いなん以南村の管理に関わるような施設が当地にあった可能性であり、その管理者が後の加久見氏に関連していることも考えられる。そして、

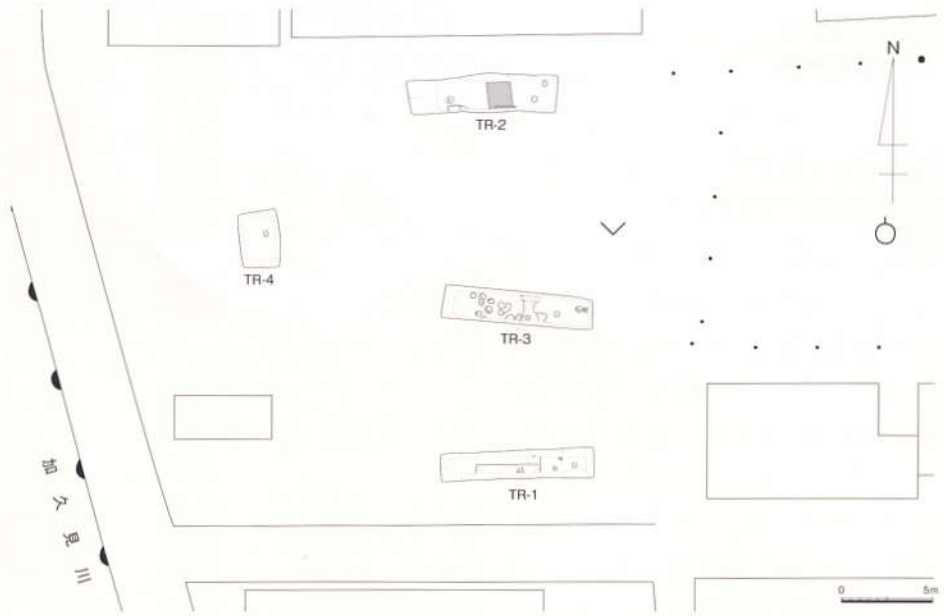
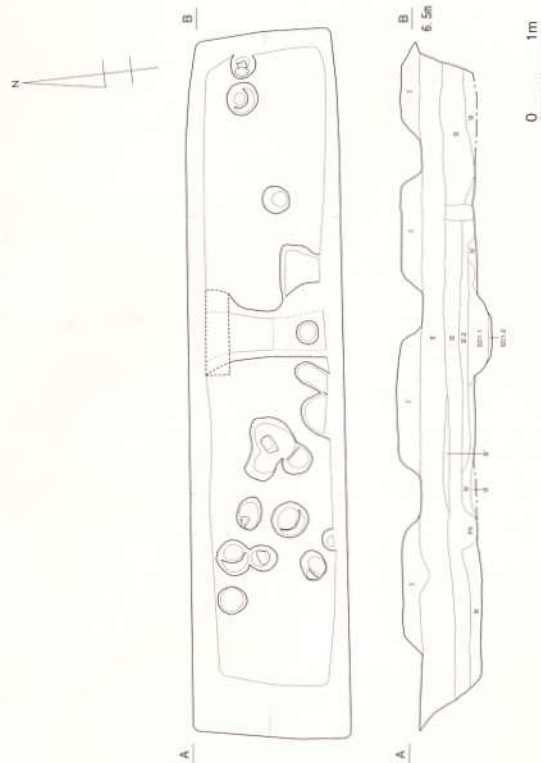


図3 調査全体図



- I: 黒褐色シルト (斑状作土)
- II: 黒褐色シルト 5mm~1cm 大の礫を含む。
- III: 黒褐色シルト 5mm~1cm 大の礫・炭化物を含む。
- IV: 赤褐色シルト (焼土)
- IV-2: 明褐色シルト 焼土・炭化物を多く含む。
- V: 灰褐色シルト 3~5cm 大の礫を含む。
- VI: 明黄褐色粘土質硬土 5~10cm 大の礫を含む。(地山)
- SD1-1: 暗褐色シルト質粘土 炭化物粒・土師質土器断片を含む。
- SD1-2: 褐色土 数 cm 大の円礫を含む。炭化物を僅かに含む。

図4 TR-3



図5 瓦器椀出土状況



図6 柱穴内遺物出土状況

今回の調査では15世紀代までの繁栄が確認される一方で、確実に16世紀代といえる遺物が確認されていないことも興味深い。結論は本報告を待つべきであるが、本遺跡が16世紀に継続していない場合、土佐一条氏とその戦略に密接に関わった加久見氏の動向を示唆している可能性がある。

以上のように、今回の調査では、四国西南端という地の利を活かして海洋に雄飛した中世豪族の存在とともに、幡多地域の中世史を描くための新たな資料を得ることができた。



図7 出土した土師質土器等



図8 香仏寺の五輪塔群

ふりがな	かぐみじょうかんいせきぐん							
書名	加久見城館遺跡群							
副書名	市内重要遺跡試掘確認調査概要報告書1							
編著者名	芝岡恵三・松田直則・池澤俊幸							
編集機関	土佐清水市教育委員会							
所在地	〒787-0392 土佐清水市天神町11番2号 Tel.0880-82-1116							
発行年月日	西暦2007年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かぐみじょうかん 加久見城館 遺跡群	とさしみずし 土佐清水市 かぐみみやもと 加久見字宮本	39209	090090	32°54'22"	132°59'53"	2006年11月20日～ 24日, 11月29日～ 12月11日	45m ²	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
加久見城館 遺跡群	城館跡	中世 近世	掘立柱建 物跡, 溝 跡	土師質土器, 貿易陶磁器, 国産陶器, 東播系須恵器, 瓦器, 瓦質土器, 鉄滓		楕葉型瓦器椀を含む中世前期の搬 入品や, 建物跡等を検出		